

## 第3回 ヨウ素利用研究シンポジウム プログラム

- 日時：平成12年11月24日(金)、25日(土)
- 場所：24日千葉大学けやき会館大ホール  
25日 かずさアカデミアホール大会議室
- 主催：ヨウ素利用研究会
- 共催：(社)日本化学会、日本ヨード工業会
- 協賛：(社)日本薬学会、(社)有機合成化学協会、(財)千葉県産業振興センター、(社)千葉県製薬協会、日本ヨード懇話会、千葉大学共同研究推進センター、千葉工業大学技術・情報センター
- 延べ381名のヨウ素利用研究者名が参加し、【第3回 ヨウ素利用研究シンポジウム】が開催されました。今回は講演者数の増加により初めての2日間の開催となり、会場も内容に合わせてそれぞれ2会場に分割して行いました。初日は、ポスター発表や懇親会など多くの方が集まれるよう、交通利便性の良い千葉大学で開催し、2日目は「先端技術とヨウ素」という副題を掲げて、落ち着いた雰囲気の中で議論が行えるよう、かずさアカデミアホールに場所を移しました。期待通り、初日の千葉大学には約300名もの多くの参加者が集まり、講演から、ポスター発表、懇親会まで大いに盛り上がりました。参加者のほとんどは研究会の会員で、その構成比は、大学関係、一般企業、ヨード工業会加盟企業がそれぞれ約3割ずつ、この他に公設研究機関や自治体などからの出席者を加え、非常にバランスが良くまとまっているのが特徴です。

### <招待講演プログラム>

24日 千葉大学 けやき会館大ホール

< I 部:講演 >

No.	予定時間	テーマ名	所属団体/講演者名
9:00~9:10		<挨拶> 磯野可一(千葉大学 学長)	
(座長:横山 正孝)			
1	9:10~10:10	<特>超原子価有機ヨウ素化合物と有機合成	徳島大学薬学部 教授 落合 正仁
2	10:10~10:45	高選択的有機合成プロセスとヨウ素	千葉大学工学部 物質工学科 教授 小倉 克之
(座長:入江 實)			
3	10:50~11:25	甲状腺ホルモンの人体への作用 -特にヨードとの関連-	虎の門病院(内分泌代謝科) 分院長 紫芝 良昌
4	11:25~12:00	ヨウ素欠乏症	東邦大学名誉教授 ICCIDD日本支部代表 入江 實

< II 部:ポスターセッション > プログラム

開場 12:00~14:30 発表と質疑 前半[奇数番号]13:00~13:40, 後半[偶数番号]13:45~14:25			
A	基礎分野	発表件数 18件	物理化学、有機反応理論、分析化学、触媒化学、分子生物学等
B	応用分野	発表件数 9件	資源、環境、エネルギー、エンジニアリング、プロセッシング等
C	実用分野	発表件数 4件	利用、応用、実用品の開発と製品紹介等

< III 部:講演 >

No.	予定時間	テーマ名	所属団体/講演者名
(座長:大塚 功)			
5	14:40~15:15	Iodine Resources in the World Today and Tomorrow	Phyllis A. Lyday, Commodity Specialist, U.S. Geological Survey, USA

6	15:15～ 15:50	Iodine Production Technologies in Chile and Their Impact on Product Quality and SHE Aspects	Roberto L Muñoz DSM Minera S.A., Chile
(座長: 江崎 正直)			
7	15:55～ 16:30	ヨウ素を利用したアルミニウムの表面処理	千葉工業大学 精密機械工学科 教授 高谷 松文
8	16:30～ 17:05	ヨウ素が支えるフッ素化学産業	株式会社旭硝子総研 顧問 山辺 正顕
9	17:05～ 17:40	高校化学におけるヨウ素教材	愛知県立一宮北高校 教諭 林 正幸

18:00～19:30	懇親会(けやき会館レセプションホール)
>>かずさアカデミアパークホテル宿泊者専用シャトルバス(要予約)	

## 25日(土)「先端技術とヨウ素」 かずさアカデミアホール 大会議室

<IV部:講演>

No.	予定時間	テーマ名	所属団体名/講演者名
10:00～10:10	<挨拶> 横山正孝(ヨウ素利用研究会 会長)		
(座長: 金子 克美)			
1	10:10～ 10:45	包接化合物の化学とヨウ素	大阪大学大学院 理学研究科 教授 原田 明
2	10:45～ 11:20	X線吸収スペクトルとヨウ素化合物	千葉大学理学部 助手 小西 健久
3	11:20～ 11:55	ヨウ素の吸着構造とその機能	東北大学大学院 工学研究科 教授 板谷 謹悟

<昼食・休憩>

13:00～13:20	ビデオ映写会「DNA研究所とその活動」	かずさDNA研究所
-------------	---------------------	-----------

<V部:講演>

No.	予定時間	テーマ名	所属団体/講演者名
(座長: 藤川 高志)			
4	13:20～ 13:55	分子磁性の展望	東京大学大学院 総合文化研究科 教授 菅原 正
5	13:55～ 14:30	エキゾチックな分子性伝導体 - 含ヨウ素ドナーを用いた新物質開発	理化学研究所 研究員 今久保 達郎
(座長: 落合 正仁)			
6	14:35～ 15:10	超原子価ヨウ素試薬を用いる新反応の開発とその生理活性天然物合成への応用	大阪大学大学院 薬学研究科 助手 当麻 博文
7	15:10～ 15:45	Organic Iodine Chemistry : 10 years of Development at the Medical University of Warsaw	Prof. Dr. hab. Lech SKULSKI Faculty of Pharmacy, Medical University of Warsaw, Poland

## <ポスター発表プログラム>

24日(金)千葉大学けやき会館

13:00～13:40 前半 奇数番号

13:45～14:25 後半 偶数番号

参加者と発表者のフリーディスカッション

番号	発表タイトル	○発表者・研究者	所属
	セルロース-ヨウ素複合体の調製法とその分	○池滝何以・角田勝則・矢島博文・	

A01	光特性に関する研究	石井忠浩	東理大理
A02	ヨウ素との錯形成による基質アミロースの形態変化に基づく $\alpha$ -アミラーゼの活性および反応様式への影響	○藤代智也・斉藤奈歩・竹村哲雄・矢島博文・石井忠浩	東理大理
A03	キトサン-ヨウ素錯体の分光特性とその熱履歴挙動に与えるキトサン分子量ならびにアセチル化度の効果	○福原 充・浅田 稔・角田勝則・矢島博文・石井忠浩・指輪仁之+	東理大理・オタワ大+
A04	ヨウ化物イオンを軸配位子として持つポリフィセン鉄(III)錯体の特異なスピン状態	○中村幹夫・池上崇久・高橋 正+・竹田満州雄+・根矢三郎++・舟崎紀昭++	東邦大医・東邦大理+・京都薬大++
A05	種々の溶媒中での三ヨウ化物イオンの溶存構造のEXAFS解析	○阪根英人・三井貴之+・谷田 肇+++・渡辺 巖+++	山梨大機器分析セ・山梨大工+・高輝度光科学研究セ+++・阪大院理+++
A06	EXAFSによる種々の溶液中におけるヨウ化物イオンの溶媒和構造の研究	○谷田 肇・渡辺 巖+	高輝度光科学研究セ・阪大院理+
A07	I <sub>2</sub> Brを置換基にもつ分子性伝導体DCNQI <sub>2</sub> Cuの圧力-温度相図	中部一幸・田崎遼子・○澤 博・加藤礼三+	千葉大院自然・理研+
A08	金属単結晶電極表面におけるヨウ素の吸着構造と機能	○犬飼潤治+/-+++・大澤芳仁+++・脇坂 暢++・下岡泰真+++・指方研二+++・板谷謹悟++	科技园+・東北大院工++・石巻専大理工+++
A09	ヨウ化アルキルを用いたジアステレオ選択的ラジカル反応の開発	○矢島知子・永野 肇	お茶女大理
A10	ヨウ化鉄(III)-P-キラルジホスフィンオキシド触媒を用いる不斉Diels-Alder反応の開発	松川 寛・○須釜 寛・今本恒雄	千葉大理
A11	ヨウ素アロイ化活性炭素繊維(ACF)の性質	○Cheol-Min Yang・金子克美	千葉大院自然
A12	超原子価ヨウ素オリゴマーの合成	○北村二雄・脇元一郎・藤原祐三	九大院工
A13	(ジASETキシノード)ベンゼンを用いたN-アルキルスルホンアミドの新規脱アルキル化反応	○加藤木正志・横山正孝・東郷秀雄	千葉大院自然・千葉大理
A14	Syntheses of (Diacetoxyiodo)arenes and Iodylarenes from Iodoarenes with Sodium Periodate as the Oxidant	○Pawel Kazmierczak・Lech Skulski・Lukasz Kraszkiewicz	Medical University of Warsaw, Poland
A15	Oxidative Iodination of Deactivated Aromatic Systems with Some Iodine(III) Transient Species	○Piotr Lulinski・Lech Skulski	Medical University of Warsaw, Poland
A16	A One-Pot(Two-Stage) Method for Preparing (Dichloroiodo)arenes from Arenes	○Piotr Lulinski・Nicolas Obeid・Lech Skulski	Medical University of Warsaw, Poland
A17	Novel Oxidative Liquid-Phase Chlorination Procedures for the Preparation of (Dichloroiodo)arenes from iodoarenes	Nicolas Obeid・○Lech Skulski	Medical University of Warsaw, Poland
A18	ヨウ素を用いた化学実験 ～招待講演 高校化学におけるヨウ素教材より～	○林 正幸	愛知県立一宮北高
B01	ヨウ素/ポリアニリン電極における酸化還元反応の温度特性	○島田恵理子・小林美樹・南 保・伊熊泰郎・橘 孝二+	神奈川工大・東理大+
B02	N-メチル化キトサン-ヨウ素複合体の抗菌・殺菌活性	山口達明・○滝口泰之・西ヶ花美里・穴澤由佳	千葉工大
B03	エッチングガスとしてのヨウ化水素	○貞本 満・柳川紀行・笹子春男・海宝龍夫	三井化学(株)
B04	ポリエチレンにグラフトしたポリビニルピロリドンのヨウ素コンプレックスの合成と構造	○武田収功・藤原邦夫・小松 誠・保田井美智子・高井 雄・高柳弘明+	(株)荏原総合研究所・北里大薬+
B05	放電励起酸素ヨウ素レーザーのためのマイクロ波放電酸素プラズマについて	○赤塚 洋・寺師孝昭・佐藤史紀・鈴木正昭+	東工大原子炉研・東工大院理工+
B06	上総層群中のヨウ素はどこから来たか? - 地殻におけるヨウ素の分布との関係から考える -	○村松康行	放射線医学総合研究所
B07	大気中ヨウ化メチルの動態	○横内陽子・野尻幸宏・藤沼康実	国立環境研究所

B08	ヨウ素の揮発に関する環境微生物	○天知誠吾・鎌形洋一+・金川貴博 +・村松康行++	千葉大園芸・工技 院生命研+・放医研 ++
B09	くん蒸の現状と今後の動向(ヨウ素の利用)	赤川茂樹・宮澤孝明・○田口信洋	日宝化学(株)
C01	新規フッ素化試薬:IF5 / HF-塩基溶融塩	○米田徳彦・福原 彊・高橋行雄+	北大(院)工・北見 工大+
C02	有機ヨウ素化合物含浸アルミニウム陽極酸化 皮膜の抗菌性	○橋本和明・高谷松文・前嶋正受・ 戸田義久	千葉工大工
C03	尿中ヨウ素測定法とその応用	○大橋俊則・飯嶋裕己・海野清美	日立化成工業(株)
C04	世界のヨード欠乏症と日本の協力ー第1報 モ ンゴルの例	○猪狩友行・入江實・山田智恵里+	千葉医療福祉専門 学校・弘前大看+